

経営学研究科【学位授与の方針】

経営学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、グローバル化、情報化、学際化の流れの中で高度の専門職職業人の養成、国際的人材の育成、さらに専門的研究者の養成を図ることを教育研究上の目的として設定している。

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、「人間としての人格陶冶」を人材養成の目的とすると同時に、「学術の殿堂、すなわち、知の集積拠点としてその役割を高めていくこと」を基本目的としている。こうした目的に基づき、知の集積拠点としてその役割を高めていくことに教育目標を絞り、専門的研究者の養成を教育研究上の目的として設定している。

<学習成果(教育目標)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

博士前期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文(※)を作成提出し、その審査に合格した者に対して修士(経営学)を授与する。

1. 明確な問題意識を持ち、主体的に研究活動を行うことができる。
2. 学術論文や著書を正確に読み解くことができる。
3. 歴史的な視点で現代経済・経営を分析・調査することができる。
4. 経営事象の事例研究を通じて、現代企業の有する問題を発見し、解決策を提示できる。
5. 幅広い視野で異文化を理解し、国際的に企業を俯瞰できる。
6. 自らの考えを自らの言葉でディスカッション・プレゼンテーションができる。
7. 経営学の高度な専門的知識を理解し、論理的な思考を行うことができる。

※ 修士論文の審査基準は以下のとおりとする。

修士論文の内容に関して、次の条件をすべて満たしていること。

1. **問題意識が明確である。**
・明確な問題意識の下での研究テーマの設定

- ・問題意識に沿った適切な問題提起
- 2. **先行研究のサーベイは適切にされている。**
 - ・先行研究の整理
 - ・関連研究における位置づけと学術的意義の明示
- 3. **論文の形式は適切である。**
 - ・表紙、要旨、目次、章立て
 - ・引用、注、参考文献
- 4. **論文の論述は適切に行われている。**
 - ・問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・論文の構成
- 5. **研究の方法論は適切である。**
 - ・研究の進め方
 - ・研究の手法
- 6. **得られた結果の考察が適切である。**
 - ・学術的意義および社会的意義について吟味されている
 - ・新規性、進歩性、有用性、独創性の何れかが示されている

〔博士後期課程〕

博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査に合格した者に対して博士（経営学）を授与する。

1. 明確な問題意識を持ち、主体的に研究活動を行うことができる。
2. 学術論文や著書を正確に読み解くことができる。
3. 歴史的な視点で現代経済・経営を分析・調査することができる。
4. 経営事象の事例研究を通じて、現代企業の有する問題を発見し、解決策を提示できる。
5. 幅広い視野で異文化を理解し、国際的に企業を俯瞰できる。
6. 自らの考えを自らの言葉でディスカッション・プレゼンテーションができる。
7. 経営学の高度な専門的知識を理解し、論理的な思考を行うことができる。
8. 経営学関連の学会での研究発表や学術雑誌への論文投稿などを通じて、理論的貢献をすることができる。
9. 研究に基づき、社会に対して実践的な提言をすることができる。

※博士論文の審査基準は以下のとおりとする。

博士論文の内容に関して、次の条件をすべて満たしていること。

1. **問題意識が明確である。**
 - ・明確な問題意識の下での研究テーマの設定

- ・問題意識に沿った適切な問題提起
- 2. 先行研究のサーベイは適切にされている。
 - ・先行研究の整理
 - ・関連研究における位置づけと学術的意義の明示
- 3. 論文の形式は適切である。
 - ・表紙、要旨、目次、章立て
 - ・引用、注、参考文献
- 4. 論文の論述は適切に行われている。
 - ・問題提起から結論の導出までの論旨の一貫性
 - ・論文の構成
- 5. 研究の方法論は適切である。
 - ・研究の進め方
 - ・研究の手法
- 6. 得られた結果の考察が適切である。
 - ・学術的意義および社会的意義について吟味されている
 - ・新規性、進歩性、有用性、独創性の何れかが示されている
- 7. 自立した研究能力と専門知識を有すると認められる内容である。
- 8. 当該研究の属する分野における国内外の学会等に発表して、その論評に耐え得る内容である。